

奈良・人と自然の会

2002年度第二回定例幹事会報告

1. 日 時：2002年7月8日（月）18：00～21：00 場 所：奈良県社会福祉総合センター
2. 出席者：川井・勝田・大寺・小山・谷口・寺田・野田・豊島・樋口（欠席者 有本・弓場）
3. 司 会：豊島 書 記：野田
4. 議 事：
 - 1) 現在会員数 59名。
 - ② ボランティア活動保険に会員全員加入手続きをした。（詳細下記）
 - 3) 県民フォーラム情報
 - ①川井会長 水フォーラムに参加
 - ②8月9日の「H14年度地球温暖化防止フェア」開催について。（詳細下記）
 - 4) 東海自然歩道歩こう会の実施について。（詳細下記）
 - 5) 当会のエンブレム ロゴマークの公募について。（詳細下記）
 - 6) 川井会長より、大阪シニア・自然大学の「地域部会活動」として「奈良・人と自然の会」の活
社会貢献発表会の冊子」に記載された、と報告あり。
 - 7) 川井会長より、8月度の講師・アドバイザー研修会を奈良公園で開催したいと申し出ありその
案内役を「奈良・人と自然の会」に依頼されたのでお引き受けした、全員でご協力願いたい。
と報告あり。
 - 8) 次回は8月8日（木）日時：PM 6:00～9：00 場所：奈良県文化会館 会議室

会計からのお願い

2002年度会費未納の方は郵便局窓口でお払い込み下さい。
口座番号 00910-5-48909 奈良・人と自然の会 宜しくお願いします。

ボランティア活動保険加入内容

会員を対象に「ボランティア活動保険」（（社会福祉法人）全国社会福祉協議会）に加入しました。
会員外の方がイベントに参加した場合は事前に届けないと有効にならないので、前もって届けて貰う
必要がありますのでご注意ください。（詳しく知りたい方は豊島さんまでお問い合わせください。）

奈良・人と自然の会のエンブレム・ロゴマークを公募

奈良・人と自然の会 に相応しいロゴマークを作成することになり、広く会員の皆さんから募集をし
ます。親しみやすく可愛らしいものをお考え下さい。

提出先は事務局

谷口 暁

県民フォーラム情報

奈良県、環境県民フォーラム、グリーン購入ネットワーク主催による下記の行事があります。

- ① H14年度 地球温暖化防止フェア ～グリーン購入フォーラム in なら～
- 1) 事業目的：環境教育ミュージカル、人形劇の上演、講演や事例紹介、商品展示等、グリーン購入の
観点から地球温暖化防止への関心を集め、日常生活における地球温暖化防止の取り組みを
促進する。
- 2) 期 日：平成14年8月9日（金）9：30～16：00
- 3) 場 所：なら100年会館 中ホール 小ホール 時の広場 （JR奈良駅からすぐ）
- 4) 事業内容：「ステージゾーン」「テンジゾーン」
- 5) 出展内容：大阪ガス、関西電力、近商ストアー、積水化学等
- 6) 奈良・人と自然の会の会員への応援要請

事業内容は上記の如くですがこの中の「テンジゾーン」の中に「夏休み親子工作教室ほか」と言うブースがあり谷口さんの所属する「環境県民フォーラム自然環境分科会」がここを確保しています。このブースで行う内容は親子対象の工作で具体的な内容はこれから検討しますが、対象人員は100人程度で順次受け付けます。このブースの応援に4人以上の応援が欲しいのでぜひご参加頂きたい。応援いただける方は谷口まで御連絡下さい。

連絡先:

②水フォーラムのブースもありますのでお立ち寄り下さい。

8月例会の神野山自然公園への観察会

日時:8月4日(日)AM9:00~PM5:00 行先:神野山 自然公園
 集合場所:近鉄奈良駅 噴水広場前 AM9:00 (9:14分発 下水間行バス乗車)
 先月号に記載の記事ですので、そちらを参照しぜひご参加ください。

第一回東海自然歩道歩こう会実施のご案内

ネイチャーなら 奈良・人と自然の会

第1回..東海自然歩道を歩こう会のご案内

東海自然歩道は74'に完成した関西と関東を結ぶ一大グリーンベルト。基点は大阪・明治の森箕面国定公園と東京・明治の森高雄国定公園で、その間は1697kmの道のりで、自然味溢れる里山を辿っております。「ネイチャーなら」では山の辺ルート(笠置山古道)から曾爾高原に至る全長約129kmの大和青垣を巡るコースを11コースに分けて一年間を通じて、一本の道としてトレースしながら自然環境の現状を把握し、植生調査を進め、巨樹・古木を始めとする植生MAP創りを行います。今回に続き今年度12月までは下記のような企画を予定いたしております。 気楽にご参加ください。

コース名	行程
10月度 ②柳生街道(滝坂道) [12km]	円成寺~石切峠~首切り地藏~破石町
11月度 ③山の辺の道 I [9km]	破石町~新薬師寺~円照寺~帯解
12月度 ④山の辺の道 II [12km]	帯解~弘仁寺~白川溜池~天理

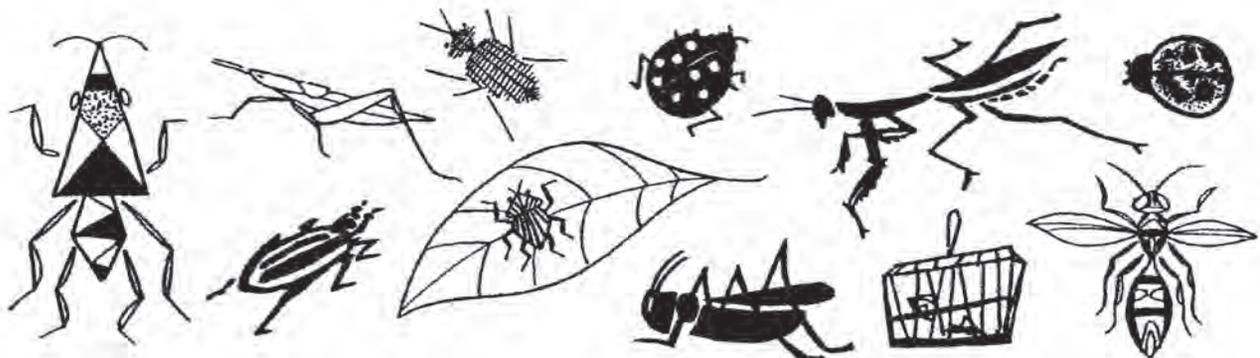
記

(コース名) ① 笠置山古道と柳生街道 [15km]
 (日時) 9月7日 (土) 午前8時20分集合(時間厳守)
 (集合場所) 近鉄:奈良駅前行基噴水広場
 (奈良交通バス④番・邑地中村行き8:29発・JR奈良駅8:26発も可)
 (行程) ※ 前日午後7時のNHK天気予報で奈良北部の降水確率50%以上の場合は中止
 近鉄奈良駅...円成寺~柳生~笠置寺~JR 笠置駅

<連絡先> 樋口善雄

・寺田正博

・弓場厚次



六月の閑日、生駒市の公共施設で二日間に亙り映画鑑賞会があり、出掛けてみた。龍村 仁 監督作品の四部構成のうち、ガイヤシンホニー第二部と第三部、それぞれ2時間40分の大作に酔ひ痴れる。結果から言えば、小泉語録ではないが正に『感動した』の一語に尽きるもので、未だにその余韻を引きずっている。

一人の日本人を縦軸に、世界の色々な分野の有識者が登場して、オムニバス形式による人と自然の関わりを語りかける、大自然をバックにクラシック、ジャズ、日本の歌曲、童謡が流れ、物質文明と精神文明の人間の在り方を問ひ、悠久の地球（ガイヤ）を守る心の問題を説いてゆく。

第二部では佐藤 初女さん（森のイスキア主宰）が登場する。老人ホームを訪問したり、色々な生と死の出会いを重ねてゆくうち、「心だけは人々に与える事ができる」と思ひたち自宅を開放、30年にわたり心を病んだ人を受け入れる。人が増えていく中で憩いの場、安らぎの場を1992年岩木山山麓にログハウス風の「森のイスキア」を完成し、その住人となる。（イスキアとはイタリアの火山島。人生の幸福を手に入れた男が虚無感に襲われ、昔父に連れられたイスキアを訪ね、自分を取り戻す）

一つの挿話がある。夜中にふと、ゆうべ漬けたお漬物はどうなっているんだろうと、石をひっくりかえしてみんな同じ状態にしてあげる。この石はもう重とお漬物が呼ぶんです。こんなものをつくる事で「おいしい」と思うと、お漬物も「ああ嬉しい」と言っている様で日常の苦しみから開放され、いらした気分が開放されるんですよと。一種の霊的体験が相手の喜びにより生きる力になると言う。

ダマイ・ラマが語る。「人間の究極の本性は、慈悲と利他の心である」と。言われてみると人間社会は利己に満ちている様に思える。地球環境問題を始め、社会生活のここかしこに自己中心的な様相が蔓延し、諸問題の根源的要因になっている事が多い。

第三部の主人公は、写真家 星野 道夫である。不幸にして1996年カムチャツカで熊に襲われ死亡する。彼の20年に及ぶシベリアの生活体験が様々の分野の友人によって描かれる。ボム・サム（アラスカ先住民族）の語り部、彼が最も信頼したブッシュパイロットドン・ロス 最も尊敬した友人 ビル・ヒラー、全米自然保護会長 シリア・ハンター、ベトナム帰還兵 原住民のウイリージャクソンと、生前の彼の勇気ある濃密な44年の人生を賛美する。彼の言葉、「目に見えないものに価値を置く社会の思想に、僕はたまらなく惹かれる」。種の違いを越えて、連綿と続く、大いなる命、悠久の命への畏敬と愛を未来の世代にどう伝えてゆくべきか、探し求めた旅の挫折が悲しさをそそる。

全編に流れる第二部の スーザン・オズボーン の『アベ・マリア』。第三部の『忘れな草』の響き鑑賞者それぞれに劇映画にない快い感動を与えて呉れたと思う。地球が一つの生命体とするならば、人間はその心である事を肝に銘じたい。第一部 第四部 の鑑賞の機会が待たれる

『人のほめ方』

樋口 善雄

いつも街で見かける樹木のはっぱが一般的には有名なのに、いざお山で拝見すると「オヤ、アナタ何の木？」となることがある。玉串に使われる「榊」が然り！葬儀に使われる「シキミ」また然り！出会う頻度に対して記憶率は案外低いのである。殊に種実をつけて現れると、母樹にはなじみがあるのに、連れ子の種実には、全くの初対面となり、全体的な、その樹木の同定が怪しくなってくる。過日その「シキミ」の親子に出会った。同行の先輩は、連れ子に対して「虫こぶ」と“かま”をかけて教えてくれる。本当に「虫こぶ」なのか半信半疑でその「虫こぶ」にメスをいれた。結果的に虫は不在で種実らしきものが鎮座ましましていないのか。

親葉に対しては、いつも拝顔の榮に浴していないから、樹名が思い出せない。結局宿題として家に持ち帰った。実は3日後に別グループでの観察会でお知恵拝借とルーズを決め込んだのである。如何なる因縁か、当日朝の散歩の途中、近くの墓地でもあまりにも偶然に身の丈1mくらいの横に広がったそっくりさん、に遭遇したではないか。いや再会したと言うのが至言であろう。

今春、純白の花を冠したこの「シキミ」に出会って花の美しさに感動させられていたのである。それでもまだ「シキミ」の名前を思い出せない。花からは想像できない種実の形だからと弁解しておこう。

当日、供試品を見た観察会の師は笑って言った。『子ずれの母から娘時代の姿を求めてはだめよ』。頭を抱えていたらその師は、おもむろに「シキミ」だと教えてくれ、やっとな鱗（ウロコ）の落ちる思いをしたのである。この答えを持って『虫こぶ』と“かま”をかけた先輩に返答を申し上げたのである。その先輩いわく、「あんたもしつつこくなつたなあ」要は粘り強く調べたことを誉めてくれたのだが、人を誉めるのにこんな誉め方もあったのである。

スイス紀行十句

有本 倍美

夏霧のなかへ中へとモンブラン

山上の駅の賑はひアイスクリーム

さかしまのマッターホルンの清水かな

切妻のバルコンの花夏の色

氷河より繚乱世界の南斜面

むらさきのアイガー北壁独活の花

雪溪に匂ひつけつつ食堂車

カウベルのからんころんや蠅払ふ

がふがふとアプト軌道や夏出水

パノラマのゆるりと変はる氷河急行

編集後記

機関紙名：奈良・人と自然の会

発行日：平成14年8月1日

発行：奈良・人と自然の会

広報編集担当：有本 倍美、勝田 均、小山 直方

先月号で機関紙の発送方法として Email、FAX、郵送 等を考えていましたが、更なる検討を要すると言う事で今月は郵送と致します。

機関紙への記事の投稿をお願いいたします。観察会に参加して感じた事、気の着いたこと、こんな事があった、と言うような事がありましたら、一口メモ的な物でもお寄せください mail、ハガキ等でも結構です。

連絡先は 有本 倍美：

奈良・人と自然の会事務所：

会長 川井 秀夫

